

農業のトップランナーを目指して

行方フロンティア農園構想

首都圏近郊のなかでも湖や里山に囲まれた自然環境豊かな行方市。基幹産業である農業を今後どのように継続・発展させていくべきか？行方農業のすすむべき道すじが提言としてまとまりましたので紹介します。

基幹産業といえば農業！

たくさんさんの農産物が通年をとおして出荷できる状況にある行方市。「セリ」・「エシヤレット」は日本一の産出額を誇り、「みず菜」・「青梗菜」・「春菊」の3品目も全国第2位の実績を持っています。茨城県銘柄産地指定を受ける「いちご」・「さつまいも」・「セリ」・「春菊」、推進産地指定の「わさび菜」も有力農産物として挙げられ、出荷野菜の品目の多さ、量、また市場での占有率などを考えると、農業が盛んな近隣市と比べても行方農業は誇れる部分がたくさんあります。

田園風景が心のふるさと

水田や畑そしてそこに育まれるたくさんさんの農作物たち。里山の織り成す風景は行方市に育ったわたしたちにとって小さなこ

ろから慣れ親しんできた次の世代に引き継ぐべき貴重な財産です。

行方農業のすすむべき道

このようにたくさんさんの誇れる部分がありながら、現在に至るまで行方市として進む農業の指針が確立されていませんでした。そこで市では市内の農業者の方・茨城大学農学部長の中島先生らにご参加いただき、平成20年度、「なめがたフロンティア農園構想策定委員会」を設置し、行方農業の将来像を模索してきました。8回にわたる委員会を開催し、今年7月8日、提言書「次世代なめがた農業への提言」を坂本市長に提出しました。



明日の行方農業6つの柱

- I 次の世代を育むために
農作物を育てることや食べ物について学ぶ「食農教育・食育」活動への取り組み
- II 行方農産物を行方ブランドとして育てていくために
人々の「食」を支えている誇りと自信を前面に出していく取り組み
- III 生き活きとした農業経営を実現させるために
誰でもが安心して農業に集中できる環境づくりの取り組み
- IV 1人ひとりが独創的な農業経営者を育成するために
多様性のある農業と先端的農業の融合の取り組み
- V 地域環境を守り育てる農業を進めるために
地域の自然を共に築いていく取り組み
- VI 人とひとの連携をすすめるために
農業をキーワードに人々のネットワークを創る取り組み



行方市の農産物たち



さつまいも

行方市のさつまいもは、主にホクホクの「ベニアズマ（紅こがね）」とネットリとした「ベニマサリ」。どちらも甘くて美味しいと好評を得ています。

みず菜

サラダなら小株（若採り）で茎の細いもの、鍋や漬物なら中株でも美味しく召し上がっていただけます。みず菜の魅力はクセのない味と、シャキシャキとした歯ごたえです。



エシャレット

エシャレットはラッキョウを軟白栽培したもの。爽やかな辛味が魅力で、茎の上部まで召し上がっていただけます。味噌やマヨネーズをつけてサクッとどうぞ。



実行に移していきます！

行方農業の指針が完成し、自然や地域の特徴を活かした農業施策を推進したいと考えています。
この提言を受け、施策の具体化が重要です。

地域をどのように振興させていくか、どのような事業を展開していくのかがこれからの課題となります。
行方農業の振興策は行方市の振興策とも言えるものです。市民のみならずと協力し、より良いかたちでの提言実現のために市は努力していきます。

食は生命をつなぐ

—農村女性地域社会活性化推進連絡会の取り組み—



なめがたフロンティア農園構想の柱のひとつにもなっている農作物を育てることや食べ物について学ぶ「食農教育・食育」活動への取り組み。
実際5回にわたり実践してきた農村女性地域社会活性化推進連絡会（根崎和枝会長）の食農教育活動にお邪魔しました。

自分で握ったおにぎりと皮を剥いたとうもろこしに、ふかしたてのじゃがいも。夏休み中の学童保育「太田エンゼルキッズ」の子ども達に美味しい昼食が振舞われました。
地元の子どもたちに対して地域の農業・農産物への関心を持つってもらうことを目的に実施。農産物に関するクイズやベジタブルカルタなども行われ、子どもたちは楽しい時間をすごしたようです。会長の根崎さんは「実施している私たちも楽しんでいきます。すこしでも農業を理解するきっかけになれば」と話してくれました。